

PRAEVIDENTIA DAILY (8月12日)

昨日までの世界：先週金曜の揺り戻し

昨日は、カナダドルの反発とユーロの小反落が目立った以外は、総じて小動きだった。カナダドルは、世界的に株価が上昇する中で、欧州時間に前日の大幅下落から反発し始め、カナダ住宅着工件数が20.01万件と前月および市場予想を上回ったことも追加的な反発材料となり、先週金曜のカナダ雇用統計後の下落分をほぼ取り返したかたちとなった。その他、ユーロは小反落、ポンドは小反発するなど、総じて先週金曜の大きな動きの反動が出た模様だ。

ドル/円は、米株価や米長期債利回りが横ばい圏内で推移する中で、102円台前半で横ばいだった。Fischer・FRB副議長が米国経済について、労働力の供給不足の長期的な悪影響や、住宅市場が景気回復の阻害要因であると述べたが、米長期債利回りやドルに対する影響は殆どみられなかった。

なお、地政学リスクを巡っては、懸念が高まった、後退した、といった両方の観測記事があるようだが、事実関係をみるとロシア・ウクライナ情勢、イラク情勢共に緊張状態は続いている。ウクライナ政府軍が東部ドネツク、ルガンスクで親ロシア派を包囲し、ロシア軍はウクライナ国境に4.5万人の兵力および兵器を集結させている。イラクでは、米軍による空爆も続けられる可能性が高い中、マリキ現首相排除のため、マスーム大統領が米国の支持もあってアバディ議会副議長を新首相に指名したことで、権力闘争も深まるとみられ、いずれも解決に向けた動きは全く見られていない。

トルコリラは、Erdogan首相の予想通りの大統領選勝利を受けて、不透明感後退から週明けに一時的に上昇する局面がみられたものの、その後はトルコ株価が下落する中で、リラも反落した。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.1	-0.01	-0.00	+0.00	-0.00	+0.01	+0.01	+0.3	+2.4	+0.4	-0.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株差
ユーロ/ドル	-0.2	-0.01	-0.01	-0.00	-0.00	+0.01	+0.01	+1.5	+0.3	-0.3	-0.03
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.1	+0.03	+0.02	-0.00	+0.02	+0.03	+0.01	+1.0	+0.3		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.1	+0.08	+0.08	-0.00	+0.12	+0.13	+0.01	+0.3	+1.4	+0.5	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.0	+0.04	+0.03	-0.00	+0.03	+0.03	+0.01	+0.3	+1.4	+0.5	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.5	-0.01	-0.00	+0.01	-0.00	+0.01	+0.01	+0.3	+0.4	+0.5	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：ユーロは続落へ

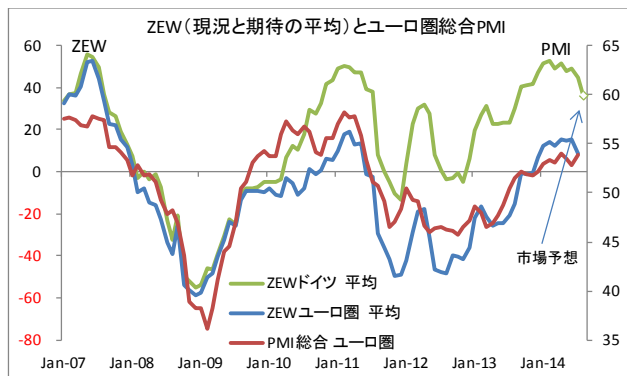
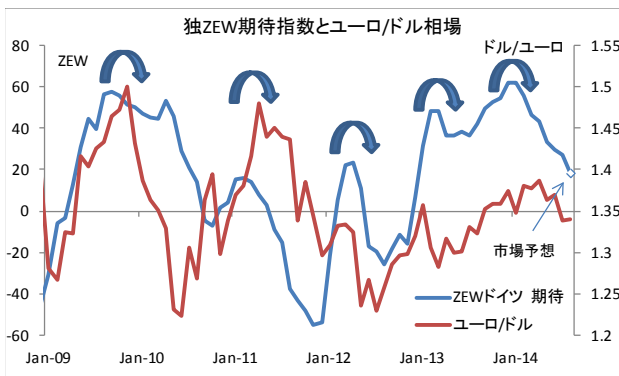
きょうの注目通貨：EUR↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
本邦7月企業物価指数 (CGPI)、前年比	8:50	+4.6%	+4.4%	
豪7月NAB企業景況感	10:30	2.3		
同企業信頼感		7.9		
豪2Q住宅価格・前年比	10:30	+10.9%	+9.3%	
ドイツ8月ZEW期待指数	18:00	27.1	18.2	予想通りだと8か月連続悪化

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日も材料が少ないが、中では**ドイツ ZEW 期待指数**が注目だ。この指数はユーロ圏 PMI やドイツ Ifo など他の景況感指数よりも先に発表されるため、「先行指標」として注目されるほか、ZEW 自体がユーロ/ドル相場に対して緩やかな先行関係がある(下図を参照)。今回、8か月連続の悪化が予想されており、予想以下であればユーロが再び下落に向かい、予想を若干上回ったとしても悪化傾向が反転したとは考えられないことから、持続的なユーロ高には結びつかないだろう。

豪州では幾つか経済指標が発表され、特に欧米の PMI と類似した指標である NAB 企業景況感・信頼感は比較的注目度が高いが、足許では RBA が中立姿勢を続けていることから、単月の指標がなかなか金融政策見通しの大幅な変化と豪ドルの方向性に大きく影響与える状況にない。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。  
 当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。  
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社  
 金融商品取引業者(投資助言・代理業) 関東財務局長(金商)第2733号  
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641